

# 保健体育科教員養成課程の大学生が有する 陸上競技授業観の実態に関する事例研究 — 体育授業観との比較から —

松本 佑介<sup>\*1</sup>  
齋藤 壮馬<sup>\*1</sup>  
北村 優弥<sup>\*2</sup>  
石飛 朱萌<sup>\*3</sup>  
福田 健太郎<sup>\*3</sup>

本研究の目的は、保健体育科教員養成課程の大学生が有する陸上競技授業観の実態について、体育授業観との比較から、事例的に明らかにすることである。保健体育科教員養成課程の大学3年生21名を対象に、自由記述式による質問紙調査を行った。その結果、以下の3点が明らかとなった。1) 保健体育科教員養成の大学生の有する陸上競技授業観は、学習指導要領の目標・内容に関連した授業観、学習指導に着目した授業観、授業の目標と評価に関連した授業観、授業における雰囲気に着目した授業観、の4つの大別された。2) 陸上競技授業観と体育授業観との比較において、【学習指導に着目した授業】が占める割合に差はなかったが、【授業の目標と評価】では陸上競技授業観が多く、【授業における雰囲気】は陸上競技授業観が少なかった。3) 21名のうち、陸上競技授業観と体育授業観が完全に一致している学生が1名、全く異なる授業観を有している学生は8名であった。

## キーワード

保健体育科教員養成課程、体育授業観、陸上競技授業観

## I. 緒言

学校教育の成否は、教師の力に大きく依存している<sup>1)</sup>。そのため教師には、社会の変化や技術革新に対応し、自身の資質能力を継続的に高め、成長していくことが求められる<sup>2)</sup>。具体的には、環境の変化を前向きに受け止め、教職生涯を通じて学び続け、子ども一人ひとりの学びを最大限に引き出す役割を果たし、子どもの主体的な学びを支援する伴走者としての資質能力である<sup>1)</sup>。この教師の資質能力について、養成・採用・研修の連続性を意識した教師教育という観点で強調されて久しいが、とりわけ、養成段階における力量形成がより重要になっている<sup>3)</sup>。教員養成課程においては、小・中・高といった被教育体験期の再生産に陥ることなく、教職志望者の授業観<sup>注1)</sup>の転換を図る必要がある<sup>1)</sup>。以上のことから、教師教育の中でも、養成段階に着目する

意義は大きいと考えられる。

その中で、教師の教育に関する信念（以下、「信念」と略す）は、教師がどのように教えるかに影響を与える<sup>4)</sup>。信念とは、教師が授業に関して持っている「ねがい」であり、知識・技術とともに、教師の授業力量を構成する要素の一つである<sup>5)</sup>。そして、この信念の1つに授業観がある。授業観とは、どのような授業を目指しているか、どのような授業をよい授業と考えているかという教師の考え方であり<sup>6)7)</sup>、教師の専門性向上にとって、授業観形成が重要である<sup>8)</sup>。とりわけ今日の学校現場においては、子どもの体力・運動能力の低さ、ならびに、運動する子どもとそうでない子どもの二極化傾向が問題になっている<sup>9)10)</sup>。したがって、授業観の中でも、体育授業観について焦点化して検討することは極めて重要であると考えられる。

このような背景から近年、体育授業観に関する研

\*1 大阪成蹊大学 教育学部

\*2 日本体育大学大学院 体育学研究科 博士課程後期

\*3 広島大学大学院 人間社会科学研究科 博士課程前期

究が蓄積されてきた。江藤<sup>3)</sup>は、養成段階の教科の指導法を通じた体育授業観の様態およびその変容について検討した。その結果、講義の受講前後における小学校教員志望学生の有する体育授業観は、【授業の実践】、【児童に身につけてほしいこと】、【児童の学習】に分類されることなどが明らかとなった。また、嘉数<sup>11)</sup>は、体育教員志望学生の体育授業観の内容を明らかにするために、体育授業観に関する尺度を構成し、学年間の差異を検討した。その結果、養成段階の学生が保持する体育授業観は、【生徒を動機づける授業】、【雰囲気の良い授業】、【理想的な授業】の3因子から構成されることなどが明らかになった。加えて、教育実習前の小学校教員志望学生が保持する体育授業観を明らかにすることを目的とした住本<sup>12)</sup>の報告では、学生の有する体育授業観は、【体育授業の目標に関すること】、【体育授業の情意面に関すること】、【体育授業の安全面に関すること】の3つに分類できることが明らかとなった。さらに、保健体育科教育実習生の体育授業観が教育実習を経験することで、どのように変容するのかについて検討した嘉数・岩田<sup>13)</sup>では、実習生が教育実習における授業実践に関する様々な経験や学習を通して、「体育授業の実践」という授業を想定した考えを形成していったことなどが明らかにされた。このように、近年、養成段階における教員志望学生や教育実習生の体育授業観に関する研究が蓄積されてきている。

しかしながら、これらの体育授業観に関する先行研究では、体育全般の授業観に着目しており、各運動種目の授業観については検討されていない。体育における運動領域として、体づくり運動、器械運動、陸上競技、水泳、球技、武道、ダンス、体育理論の8領域が示されているが<sup>9) 10)</sup>、それぞれ目標や内容が異なるため、領域ごとに保健体育科教員養成課程の大学生（以下、学生と略す）の保持する授業観は異なる可能性が推察される。とりわけ、陸上競技については、多岐にわたる種目それぞれに特性があり、専門的な技術・指導が求められるため、教育現場において取り扱いが難しい領域の一つである<sup>14)</sup>と同時に、体育授業における実施率が高い領域としても挙げられる<sup>15)</sup>。以上のことから、学生の陸上競技に関する授業観（以下、陸上競技授業観と略す）は、注目するに値する。そして、陸上競技授業観について検討する際には、体育授業観と比較することで、その実態が明確になると思われる。

そこで本研究では、学生が有する陸上競技授業観の実態について、体育授業観との比較から、事例的に明らかにすることを目的とした。

## Ⅱ. 研究方法

### 1. 調査期日および対象者

本調査は、2022年10月に実施された。対象者は、A大学保健体育科教員養成課程の大学3年生21名であった。なお、対象者のうち、17名は教育実習を経験しており、残り4名は教育実習を経験していない学生であった。

### 2. 調査方法および調査内容

調査方法として、自由記述式による質問紙調査を用いた。また、調査内容として、体育授業観について調査している嘉数<sup>6)</sup>と山平ほか<sup>7)</sup>を参考に、表1のように設定した。

表1 質問紙調査の内容

①	良い陸上競技の授業とはどのような授業だと考えますか。
②	そのように考える理由を記述してください。
③	良い体育授業とはどのような授業だと考えますか。
④	そのように考える理由を記述してください。

### 3. 分析の手続き

質問紙調査によって得られた陸上競技授業観および体育授業観に関する自由記述のデータについて、KJ法<sup>16)</sup>を用いて帰納的に分類した。具体的には、まず、自由記述の内容をコーディングしてコードとして位置づけた。次に、各コードの類似性に着目して、複数のコードを包括するサブカテゴリーを生成した。さらに、生成された複数のサブカテゴリーを包括するものとして、サブカテゴリーの上位に位置するカテゴリーを生成した。その後、陸上競技授業観として記述されたコードと、体育授業観として記述されたコードに分けたうえで、生成されたカテゴリー数数の比率を求めた。なお、回答理由に関する項目については、各授業観の解釈およびコード化、ならびに、考察に用いることとした。また内的妥当性については、仲間同士での検証<sup>17)</sup>を用いることで、担保できるように努めた。具体的には、筆頭著者、ならびに、体育科教育学を専門とする大学院博士課程前期学生2名の共同で分析を実施した。分析者間で意見が一致しなかった箇所については、著者間で協議し、三者が納得のいくまで検討を行った。

### 4. 倫理的配慮

質問紙調査の際、本研究の目的、研究への参加は自由であること、回答については本研究以外の目的には使用しないことを口頭および文書で説明し、同意書への回答を求めたうえで実施した。本研究は、大阪成蹊大学研究倫理審査委員会の承認を得ている

(承認番号：大 2022-42).

### Ⅲ. 結果

#### 1. 生成されたカテゴリー、サブカテゴリー、コードについて

陸上競技授業観および体育授業観に関する自由記述から生成されたカテゴリーを【 】, サブカテゴリーを《 》, コードを〈 〉で表記した。

1つ目のカテゴリーである【学習指導要領の目標・内容に関連した授業】は、《知識面》, 《技能面》, 《思考面》, 《態度面》のサブカテゴリーで構成された。《知識面》では、〈生徒が動きのコツを理解できる授業〉が示された。《技能面》においては、〈技能が上達する授業〉や〈成功体験を感じられる授業〉等が挙げられた。《思考面》には、〈生徒が思考できる授業〉が含まれた。《態度面》では、〈生徒の意欲が高い授業〉や〈生徒が精一杯力を発揮できる授業〉等が示された。

2つ目のカテゴリーである【学習指導に着眼した授業】は、《運動量》, 《安全面》, 《難易度》, 《生徒中心》, 《授業における説明》, 《授業における展開の工夫》, 《技能差》, 《グルーピング》, 《協力》, 《成果》で構成された。《運動量》では、〈運動量が多い授業〉や〈運動負荷が高すぎない授業〉等が示された。《安全面》においては、〈怪我のない授業〉や〈安全な授業〉等が挙げられた。《難易度》には、〈難易度が適切な授業〉や〈全員ができる種目を実施する授業〉が含まれた。《生徒中心》では、〈生徒の実態や意見に応じた授業〉が示された。《授業における説明》については、〈説明がわかりやすい授業〉が挙げられた。《授業における展開の工夫》には、〈走るだけではない授業〉が含まれた。《技能差》では、〈技能差があっても成立する授業〉が示された。《グルーピング》においては、〈技能同質グループによる授業〉が挙げられた。《協力》には、〈仲間とコツを共有する時間がある授業〉と〈仲間と協力できる授業〉が含まれた。《成果》では、〈生徒が成果を感じられる授業〉が示された。

3つ目のカテゴリーである【授業の目標と評価】は、《目標》, 《評価》で構成された。《目標》では、〈目標が明確な授業〉と〈個に応じた目標が設定される授業〉が示された。《評価》においては、〈記録ではなく過程を評価する授業〉や〈記録で評価しない授業〉等が挙げられた。

4つ目のカテゴリーである【授業における雰囲気】は、《情意面》, 《参加》で構成された。《情意面》では、〈苦手な生徒でも楽しいと思える授業〉, 〈楽し

いと思える授業〉等が示された。《参加》においては、〈全員が参加できる授業〉や〈苦手な生徒でも参加できる授業〉等が挙げられた。

#### 2. 陸上競技授業観と体育授業観の各カテゴリーにおけるコード数

生成されたコードの総数は83であり、そのうち陸上競技授業観に関する回答から生成されたコードが36, 体育授業観に関する回答から生成されたコードが47であった。

【学習指導要領の目標・内容に関連した授業】において、陸上競技授業観は17(47.2%), 体育授業観は16(34.0%)のコードが生成された。【学習指導に着眼した授業】において、陸上競技授業観は11(30.6%), 体育授業観は14(29.8%)のコードが生成された。【授業の目標と評価】において、陸上競技授業観は6(16.7%), 体育授業観は2(4.3%)のコードが生成された。【授業における雰囲気】において、陸上競技授業観は2(5.6%), 体育授業観は15(31.9%)のコードが生成された。

#### 3. 各学生における陸上競技授業観と体育授業観の比較

各学生における陸上競技授業観と体育授業観のカテゴリー、サブカテゴリーは、表3の通りである。21名の学生のうち、カテゴリー・サブカテゴリーともに、コード数も含めて陸上競技授業観と体育授業観が完全に一致したのは1名、カテゴリー・サブカテゴリーに完全一致のものが1つ以上だったのは9名、カテゴリーが一致しているものはあるが、サブカテゴリーが異なるものであったのは3名、カテゴリー・サブカテゴリーともに、完全一致しているものが1つもないのは8名であった。なお、表3においては、◎:カテゴリー・サブカテゴリーともに、コード数も含めて完全一致している、○:カテゴリー・サブカテゴリーに完全一致のものが1つ以上、△:カテゴリーが一致しているものがあるが、サブカテゴリーが異なるものがある、×:カテゴリー・サブカテゴリーともに、完全一致しているものが1つもない、として表記した。

### Ⅳ. 考察

#### 1. 陸上競技授業観と体育授業観の全体的な差異

1つ目のカテゴリーである【学習指導要領の目標・内容に関連した授業】に含まれるコード数について、陸上競技授業観では全体の47.2%, 体育授業観では全体の34.0%であった。その中で、サブカテゴリー

表2 生成された陸上競技授業観と体育授業観に関するカテゴリー、サブカテゴリー、コード

カテゴリー	サブカテゴリー	コード	陸上競技授業観			体育授業観		
			カテゴリー	サブカテゴリー	コード	カテゴリー	サブカテゴリー	コード
学習指導要領の目標・内容に関連した授業	知識面	生徒が動きのコツを理解できる授業		1	1		0	0
		技能が上達する授業			4			1
		成功体験を感じられる授業			1			0
		苦手な生徒でも「できた」がある授業			1			0
		全員の技能が上達する授業			1			0
	技能面	目標に応じた技能が上達する授業			1			0
		楽しく技能が上達する授業			1			0
		適切な運動量で技能が上達する授業		12				8
		「できなかった」が「できる」になる授業				1		2
		技能が身に付く授業			1	16		1
		「できた」がある授業			0			2
		「できた」が増える授業			0			1
	思考面	「できた」が多くある授業			0			1
		生徒が思考できる授業		1	1		0	0
	態度面	生徒の意欲が高い授業				1		0
		生徒が精一杯力を発揮できる授業				1		0
		学習規律が確立された授業				1		0
		生徒が主体的な授業			0			2
		生徒が積極的な授業		3	0		8	1
		生徒が努力する授業			0			1
生徒が能動的な授業				0			1	
生徒が自己に向き合う授業				0			1	
生徒同士で工夫する授業				0			1	
生徒主体の授業				0			1	
運動量	運動量が多い授業				1		2	
	運動負荷が高すぎない授業				1		0	
	生徒の体力に応じた運動量が設定される授業		3		1		5	
	運動量が適切な授業				0		3	
	怪我のない授業				1		1	
安全面	安全な授業		2		1		3	
	怪我なく安全な授業				0		1	
難易度	難易度が適切な授業				1		0	
	全員ができる種目を実施する授業		2		1		0	
学習指導に着眼した授業	生徒中心	生徒の実態や意見に応じた授業	11 (30.6%)	0	0	14 (29.8%)	1	1
	授業における説明	説明がわかりやすい授業		0	0		1	1
	授業における展開の工夫	走るだけではない授業		1	1		0	0
	技能差	技能差があっても成立する授業		0	0		1	1
	グルーピング	技能同質グループによる授業		2	2		0	0
	協力	仲間とコツを共有する時間がある授業		1	1		2	0
	成果	仲間と協力できる授業			0			2
授業の目標と評価	成果	生徒が成果を感じられる授業		0	0		1	1
	目標	目標が明確な授業			1			1
	評価	個に応じた目標が設定される授業		2		1		1
		記録ではなく過程を評価する授業		6 (16.7%)		2	2 (4.3%)	0
		記録で評価しない授業				1		0
授業における雰囲気	個人の成長を評価する授業				1		0	
	結果ではなく過程を評価する授業				0		1	
	情意面	苦手な生徒でも楽しいと思える授業				2		2
		楽しいと思える授業		2		0		11
		全員が楽しいと思える授業				0		3
	参加	愛好度を高める授業		2 (5.6%)		0	15 (31.9%)	1
		全員が参加できる授業				0		2
苦手な生徒でも参加できる授業					0		4	
	全員が参加でき、高め合える授業				0		1	
合計			36		47			

表3 各学生における陸上競技授業観と体育授業観の категория およびサブ категория

学生	陸上競技授業観		体育授業観		一致の有無
	category	サブ category	category	サブ category	
A	学習指導要領の 目標・内容に関連した授業	態度面	学習指導要領の 目標・内容に関連した授業	態度面	◎
B	授業における雰囲気	情意面	学習指導要領の 目標・内容に関連した授業 授業における雰囲気	態度面 情意面	○
C	学習指導要領の 目標・内容に関連した授業	技能面	授業における雰囲気 学習指導に着眼した授業	情意面 運動量	○
	学習指導要領の 目標・内容に関連した授業	技能面	学習指導要領の 目標・内容に関連した授業 授業における雰囲気	技能面 情意面	
D	学習指導に着眼した授業	運動量	授業における雰囲気 学習指導要領の 目標・内容に関連した授業	参加 技能面	○
	学習指導に着眼した授業 授業の目標と評価	協力 評価	学習指導に着眼した授業	運動量	
E	学習指導要領の 目標・内容に関連した授業	技能面	授業における雰囲気 学習指導要領の 目標・内容に関連した授業	情意面 技能面	○
F	学習指導要領の 目標・内容に関連した授業	態度面	学習指導要領の 目標・内容に関連した授業	態度面	○
	学習指導要領の 目標・内容に関連した授業	思考面	学習指導要領の 目標・内容に関連した授業	態度面	
G	学習指導に着眼した授業	運動量	授業における雰囲気	情意面	○
	学習指導に着眼した授業	難易度	授業における雰囲気	情意面	
H	学習指導に着眼した授業	安全面	学習指導に着眼した授業	授業における 説明	○
	学習指導に着眼した授業	授業における 展開の工夫	学習指導に着眼した授業	安全面	
I	学習指導要領の 目標・内容に関連した授業	技能面	学習指導に着眼した授業 学習指導要領の 目標・内容に関連した授業	安全面 技能面	○
J	学習指導に着眼した授業	難易度	学習指導に着眼した授業	運動量	○
	学習指導要領の 目標・内容に関連した授業	技能面	学習指導要領の 目標・内容に関連した授業 学習指導に着眼した授業	技能面 技能差	
K	授業における雰囲気	情意面	授業における雰囲気 学習指導要領の 目標・内容に関連した授業	情意面 技能面	○
	授業における目標と評価	目標	学習指導要領の 目標・内容に関連した授業	技能面	
L	学習指導に着眼した授業	安全面	学習指導に着眼した授業	生徒中心	△
	学習指導要領の 目標・内容に関連した授業	態度面	学習指導に着眼した授業	安全面	
M	学習指導に着眼した授業	運動量	授業における雰囲気 学習指導要領の 目標・内容に関連した授業	情意面 態度面	△
	授業における目標と評価	評価	学習指導要領の 目標・内容に関連した授業	態度面	
N	学習指導要領の 目標・内容に関連した授業	技能面	学習指導に着眼した授業 学習指導に着眼した授業	態度面 安全面 運動量	×
O	授業の目標と評価 学習指導に着眼した授業	目標 グルーピング	授業における雰囲気	参加	×
P	学習指導要領の 目標・内容に関連した授業	技能面	授業における雰囲気 授業における雰囲気	情意面 参加	×
Q	授業の目標と評価 学習指導要領の 目標・内容に関連した授業	評価 知識面	学習指導要領の 目標・内容に関連した授業	技能面 評価	×
R	学習指導要領の 目標・内容に関連した授業	技能面	授業における雰囲気	参加	×
S	授業の目標と評価	目標	学習指導要領の 目標・内容に関連した授業	技能面	×
			学習指導要領の 目標・内容に関連した授業 授業における雰囲気 学習指導に着眼した授業	態度面 情意面 協力	
T	学習指導要領の 目標・内容に関連した授業	技能面	学習指導に着眼した授業	運動量	×
			授業の目標と評価 学習指導に着眼した授業	目標 成果	
U	学習指導に着眼した授業	グルーピング	授業における雰囲気	情意面	×

《技能面》に着目してみると、嘉数・岩田<sup>13)</sup>においては、教育実習後の学生が有する体育授業観の1つとして、《技能を身につけられる授業》が挙げられており、そのコード数は全体の10.3%であった。同様に、本研究では、《技能面》について、体育授業観では全体の17.0%を占めていた。他方で、陸上競技授業観において《技能面》は、全体の33.3%を占めていた。このように、陸上競技授業観において、《技能面》の割合が高かった要因には、学生が陸上競技は技能を伸ばすことが重要な運動領域であると捉えている傾向にあることが考えられる。例えば、《技能面》に関する陸上競技授業観をもつ学生Cは、その理由として、「陸上競技では『ただひたすら走る』という授業になりがちだが、記録を向上させるためには、走りのポイントを押さえたうえで、フォームなどをよくしていることが大事だから」と述べていた。このような回答は多くの学生にみられ、体育授業観と比較して、《技能面》を重視する陸上競技授業観を有している学生が多くいる傾向が示唆された。

2つ目のカテゴリーである【学習指導に着目した授業】に含まれるコード数について、陸上競技授業観では全体の30.6%、体育授業観では全体の29.8%であり、その差異は小さかった。山平ほか<sup>7)</sup>においては、海外の初等教員養成段階の事例ではあるものの、体育科教育法受講後の学生が有する体育授業観の1つとして、【学習指導に着目した授業】が挙げられており、そのコード数は全体の59.3%であった。そのため、本研究では、山平ほか<sup>7)</sup>と比較して、【学習指導に着目した授業】に関する授業観を保持していない実態が推察された。また、サブカテゴリー別にみると、陸上競技授業観のみで生成されたものとして、《難易度》、《授業展開における工夫》、《グルーピング》が挙げられた一方で、体育授業観のみで生成されたものとして、《生徒中心》、《授業における説明》、《技能差》、《成果》が挙げられた。このように、サブカテゴリー別にみると違いはあるものの、陸上競技授業観と体育授業観において、【学習指導に着目した授業】に関する授業観を保持している学生は、同程度存在することが窺えた。

3つ目のカテゴリーである【授業の目標と評価】に含まれるコード数について、陸上競技授業観では全体の16.7%、体育授業観では全体の4.3%であった。嘉数・岩田<sup>13)</sup>でも、教育実習後の学生が有する目標や評価に関する体育授業観のコード数は、全体の13.8%であり、割合としてはいずれも小さかった。その中で本研究では、陸上競技授業観と体育授業観において、その割合に差がみられた。すなわち、

陸上競技では、良い授業が目標・評価と関係しているという考えをもつ学生が多いことが推察された。この背景としては、陸上競技が、自己の目標とする記録に挑戦することができる運動領域であること<sup>18)</sup>が挙げられる。学生は、運動能力に差がある生徒それぞれに適した目標を設定し、その成果を適切に評価することが重要であると捉えていると考えられる。

4つ目のカテゴリーである【授業における雰囲気】では、陸上競技授業観が5.6%、体育授業観が39.1%であった。この要因としては、陸上競技の走・跳・投動作は、それぞれ2歳から6、7歳にかけて成熟した動作になるため<sup>19)</sup>、多くの生徒がある程度の技能を有しており、全く授業に参加できないという状況が少ないことが考えられる。体育授業観では〈全員が参加できる授業〉や〈全員が楽しいと思える授業〉といったコードが生成されたが、陸上競技授業観においては、走・跳・投動作という比較的単純な運動構造から、参加したり、楽しいと思えたりする水準が低いために、このような結果になったことが推察される。なお、嘉数・岩田<sup>13)</sup>においては、教育実習後における【体育授業における生徒の雰囲気】のコード数の割合は、全体の27.6%であり、本研究の体育授業観は、これよりも割合が高かった。

## 2. 各個人における陸上競技授業観と体育授業観の差異

陸上競技授業観と体育授業観のカテゴリーおよびサブカテゴリーが完全に一致した学生Aは、それぞれ【学習目標・内容に関連した授業】の《態度面》に関する授業観を保持していた。他方で、陸上競技授業観と体育授業観において、同一のサブカテゴリーを有する学生は9名おり、そのうち4名は【学習指導要領の目標・内容に関連した授業】の《技能面》に関する授業観を有していた。また、《情意面》は2名、《態度面》、《運動量》、《安全面》は1名が共通する授業観を保持していた。サブカテゴリーは一致しなかったものの、同様のカテゴリーに分類された授業観をもっていたのは3名であり、【学習指導要領の目標・内容に関連した授業】が2名、【学習指導に着目した授業】が1名であった。一方で、カテゴリー・サブカテゴリーともに、完全一致しているものが1つもなかった学生が8名いた。以上のように、陸上競技授業観と体育授業観においては、同一の授業観を保持している学生もいれば、類似した授業観をもつ学生、全く異なる授業観を有する学生など、多様な実態があることが窺えた。

これまでの体育授業観に関する研究<sup>11-14)</sup>では、

体育授業全般の授業観について、その実態や体育科指導法・教育実習前後の変容、学年間の差異などが明らかにされている。他方で、本研究の結果からは、学生が有する各運動領域の授業観は、体育授業観と異なる可能性があることが示唆された。

## V. まとめと今後の課題

本研究の目的は、保健体育科教員養成課程の大学生が有する陸上競技授業観の実態について、体育授業観との比較から、事例的に明らかにすることであった。本研究の結果、以下の3点が明らかになった。

- 1) 学生が有する陸上競技授業観は、学習指導要領の目標・内容に関連した授業観、学習指導に着目した授業観、授業の目標と評価に関連した授業観、授業における雰囲気に着目した授業観、の4つに大別された。
- 2) 陸上競技授業観と体育授業観との比較において、【学習指導に着目した授業】が占める割合に差はなかったが、【授業の目標と評価】では陸上競技授業観が多く、【授業における雰囲気】は陸上競技授業観が少なかった。
- 3) 21名のうち、陸上競技授業観と体育授業観が完全に一致している学生が1名、全く異なる授業観を有している学生は8名であった。

本研究では、陸上競技以外の運動領域に関する授業観との比較や、陸上競技の中でもさらに、各運動種目における授業観について検討することができなかった。また本研究は人数が限られた事例研究であるため、さらなる事例の蓄積が求められる。この点は今後の課題としたい。

### 注

- 1) 授業観と近い意味で使われる用語に、指導観があるが、体育科教育学分野において、混在して使用されている現状がある<sup>8)</sup>。そこで本研究では、授業観と指導観について、直接引用箇所を除いて、授業観という用語で統一して表記した。

### 引用文献

- 1) 中央教育審議会。「令和の日本型教育」を担う教師の養成・採用・研修等の在り方について―「新たな教師の学びの姿」の実現と、多様な専門性を有する質の高い教職員集団の形成―(答申)。https://www.mext.go.jp/content/20221219-mxt\_kyoikujinzai01-1412985\_00004-1.pdf。(参照 2023-6-30)。
- 2) 室井七美、石塚諭。小学校教師の体育授業観形成に学習指導要領改訂が与える影響。『宇都宮大学共同教育学部研究紀要第1部』。2022, no.72, p.373-388.
- 3) 江藤真生子。小学校体育授業の指導観の変容に関する事例研

- 究―養成段階の学生を対象とした教科の指導法に関する講義に着目して―。『日本教科教育学会誌』。2019, vol.42, no.3, p.83-94.
- 4) Reichert., Frank.; Lange, Dirk.; Chow, Leo. Educational beliefs matter for classroom instruction: A comparative analysis of teachers' beliefs about the aims of civic education. *Teaching and Teacher Education*. 2021, vol.98, p.1-13.
  - 5) 吉崎静夫。デザイナーとしての教師 アクターとしての教師。金子書房。1997.
  - 6) 嘉数健悟。教員養成段階における体育授業観の様態に関する事例研究―教育実習を中心に―。『広島大学博士論文』。2013.
  - 7) 山平芳美、木村寿一、齊藤一彦、白石智也。カンボジアの初等教員養成段階における体育授業観の様態に関する研究―特に「体育科教育法」受講前後の変容に着目して―。『運動とスポーツの科学』。2020, vol.25, no.2, p.71-84.
  - 8) 成家篤史、鈴木直樹、石塚諭。体育の指導観形成における組織内の教師間の関係性に関する研究―小学校教師に着目して―。『体育科教育学研究』。2018, vol.34, no.1, p.1-16.
  - 9) 文部科学省。中学校学習指導要領(平成29年告示)解説保健体育編。東山書房。2018.
  - 10) 文部科学省。高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説保健体育編。東山書房。2019.
  - 11) 嘉数健悟。体育教師志望学生の体育授業観に関する事例研究―因子構造と学年間の差異―。『広島大学大学院教育学研究紀要第二部』。2012, no.61, p.291-297.
  - 12) 住本純。小学校教員養成段階における体育授業観の様態―短期大学児童教育学科を事例に―。『夙川学院短期大学研究紀要』。2016, vol.43, no.43, p.18-26.
  - 13) 嘉数健悟、岩田昌太郎。教員養成段階における体育授業観の変容に関する研究―教育実習の前後に着目して―。『体育科教育学研究』。2013, vol.29, no.1, p.35-47.
  - 14) 佐々木大志。高等学校における陸上競技授業の実態調査。『東京女子体育大学・東京女子体育短期大学紀要』。2020, no.57, p.91-97.
  - 15) 及川佑介、長谷川千里。高等学校における体育実技授業の実態調査―体育女子大学生と一般女子大学生の比較―。『東京女子体育大学女子体育研究所所報』。2017, no.11, p.41-43.
  - 16) 川喜田二郎。KJ法―混沌をして語らしめる―。中央公論社。1986.
  - 17) メリアム。堀薫夫ほか訳。質的調査法入門―教育における調査法とケース・スタディー―。ミネルヴァ書房。2004.
  - 18) 陳洋明。“陸上運動[競技]の教材づくり・授業づくり”。『体育科教育学入門[三訂版]』。岡出美則ほか編。大修館書店。2021, p.183-192.
  - 19) 加藤謙一。走・跳・投の動きの改善は喫緊の課題である。『体育科教育』。2018, vol.66, no.10, p.12-16.

A Case Study of Health and Physical Education Teacher Training Course Students'  
Views of Teaching Track and Field  
—A Comparison with the View of Teaching Physical Education—

MATSUMOTO Yusuke \*<sup>1</sup>  
SAITO Soma \*<sup>1</sup>  
KITAMURA Yuya \*<sup>2</sup>  
ISHITOB I Ayame \*<sup>3</sup>  
FUKUDA Kentaro \*<sup>3</sup>

**Abstract**

The purpose of this study was to clarify the actual situation of the view of teaching track and field held by students in the health and physical education teacher training program by comparing it with the view of teaching physical education, as a case study. To this end, an open-ended questionnaire survey was administered to 21 students enrolled in a health and physical education teacher training course. The results revealed the following three points: 1) Health and physical education teacher training students' views of teaching track and field were divided into four main categories: views of classes related to the objectives and content of the Courses of Study, views of classes focused on learning instruction, views of classes related to class objectives and evaluation, and views of classes focused on the learning atmosphere. 2) In comparison between the views of teaching track and field and teaching physical education, there was no difference in the percentage of "class focused on learning instruction," but the teaching track and field view was higher in "class goals and evaluation," and the teaching track and field view was lower in "class atmosphere. (3) Of the 21 students, one student had an equivalent view of the teaching track and field from that of the physical education, and eight students had a completely different view of the physical education class.

**Keywords**

Health and physical education teacher training course, View of teaching physical education, View of teaching track and field

---

\*<sup>1</sup> Osaka Seikei University, Faculty of Education

\*<sup>2</sup> Doctoral student, Graduate School of Health and Sport Science, Nippon Sport Science University

\*<sup>3</sup> Master's course student, Graduate School of Humanities and Social Sciences, Hiroshima University